

社団法人鳥取青年会議所
創立50周年 運動ビジョン

かん こう

「環光のまち因幡」推進運動

Ver.10

はじめに

我々(社)鳥取青年会議所は長きに亘り、「明るい豊かなまち」をつくる為に様々な活動チャレンジしてきました。1989年から高速道路網の早期実現に向け、当時の建設省への陳情活動を行ってきました。1990年には因幡地域を一つのまちとして見ようという「因幡市構想」を打ち出し、1994年には因幡の持つ都市機能と豊かな田園地帯をバランスよく一体化させる「因幡田園都市構想」を提唱し、合併に対する議論を喚起してきました。1995年から2004年までの10年間「因幡はひとつ」を合言葉に、因幡地域の固有の伝統文化である麒麟獅子に着目し、「麒麟獅子フェスタ」を開催し因幡地域の広域連携を図りました。2000年には「因幡市民共創運動」を提唱し、JCのみではなく因幡市民と協働したまちづくりを展開してきました。さらには次世代を担う青少年の健全育成の為に活動、因幡の誇りである鳥取砂丘に関わる活動等を行い、因幡地域の発展に寄与してきました。

来年(社)鳥取青年会議所は創立50周年を迎えます。我々は今日の激変する社会情勢の中でありながらも、どうすれば因幡がこれから継続的に発展し、因幡市民が地域に自信と誇りを持つことができるのかを真剣に考え、それを確実に実行しなければなりません。その為には、日本の中で、更には世界の中で因幡にしか担えない役割を見つけ、それを因幡市民が手を取り合って、楽しみながら遂行することが必要であると考えます。(社)鳥取青年会議所はこれを長期的かつ発展的に行う為に、これからの10年間の運動ビジョンを策定いたします。

社団法人 鳥取青年会議所
因幡ビジョン特別委員会
委員長 水野 由久

社団法人鳥取青年会議所 創立50周年 運動ビジョン

1. 策定にあたって

1-1. 今のままでは因幡地域は・・・

政府は10年後をめどに道州制の導入を検討しています。それが実現すれば、都道府県制度は廃止となり、鳥取市は県庁所在地ではなくなります。そして鳥取市が県庁所在地であることによる交流人口や経済効果はなくなることが想定されます。明治9年から明治14年までの5年間、鳥取県は島根県に統合され、鳥取市は県庁所在地ではなくなり、一気に活気を失った時と同様な状況になることが考えられます。また因幡地域は中国州であっても中四国州であっても北東の端であり、立地的に最も不利になる地域となります。また、2009年には鳥取自動車道が開通します。因幡にとって鳥取自動車道が開通することは大きな経済効果を生み出す可能性がある反面、地域に魅力がなければ、ストロー現象を起こす可能性もあります。

近い将来に起こる現実を直視し、行動を起こさなければ、因幡地域の人口の減少は加速し、地域経済は衰退し、雇用はさらに不安定となり、因幡市民は将来に希望を持ち、安心・安全な生活を送ることが困難になると想定されます。

1-2. 策定の背景

道州制の導入を見据え、因幡地域が継続的に発展し、因幡市民が自信と誇りを持てる地域になる為には他地域とは明らかに違うアイデンティティーを持つことが必要です。言い換えれば因幡地域にしか担えない役割を持つということです。因幡地域には環境分野で世界をリードする大学や研究機関が存在します。また鳥取砂丘をはじめ山・川・海の自然環境がバランスよく残っています。因幡の自然環境を生かした漁業や農業も競争力をもっています。このような因幡地域のポテンシャルを連携させた地域イメージの創造にチャレンジすることが必要であると考えます。

1-3. 創立50周年 運動ビジョン

かん こう

「環光のまち因幡」推進運動

1-4. 「環光のまち因幡」推進運動とは

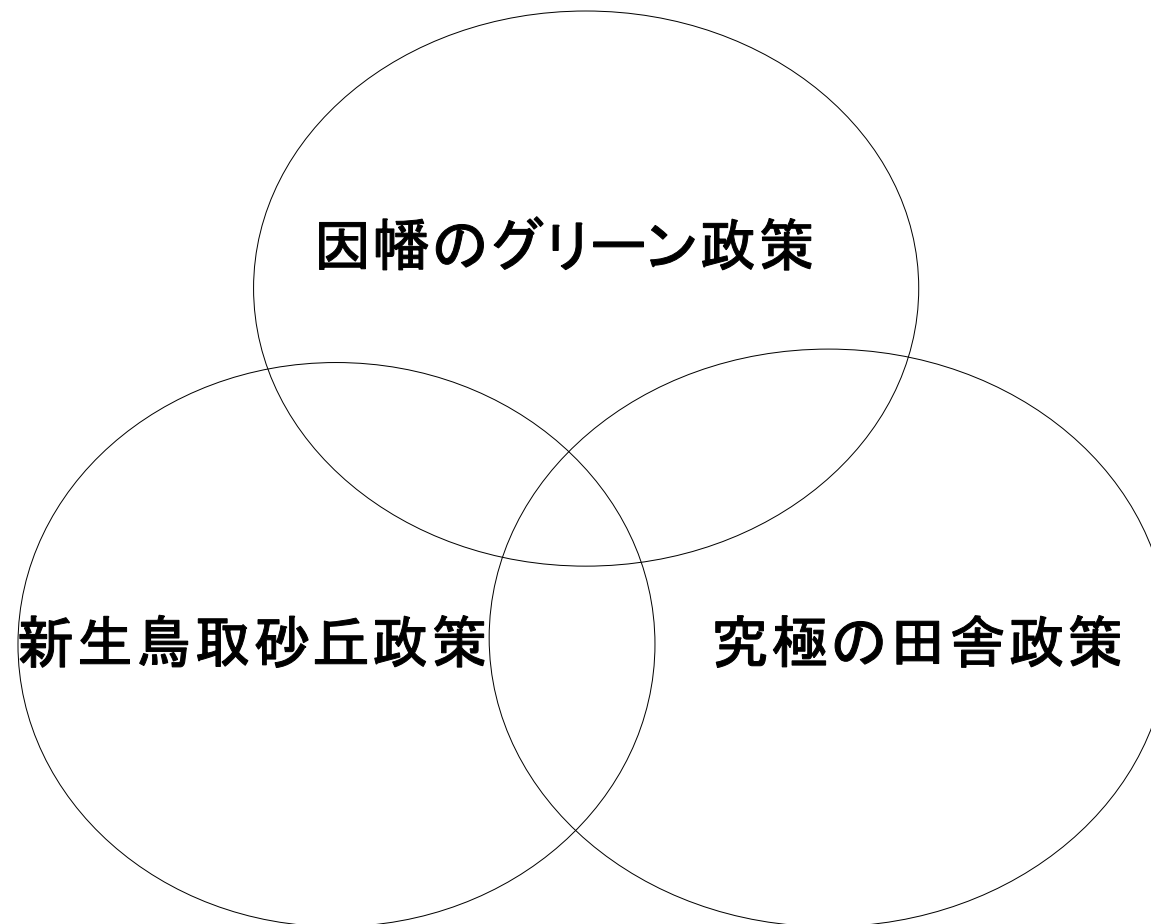
因幡の豊かな自然環境(ENVIROMENT)と

因幡の特徴を活かした環境保全活動(ECOLOGY)を

観光資源として活用し、人と人の環を広めながら

「環境」と「経済」が好循環するまちを創る運動です。

2. 「環光のまち因幡推進運動3つの政策」



2-1. 因幡のグリーン政策

- 大学・研究機関・企業・行政・NPO等の人材と知識を活用し、因幡地域の特徴を活かした環境への取り組みを行います。
- 環境への取り組みを通して地域の人と協働し、人と人の環を広げます。
- 「環境」と「経済」が好循環するまちを創ります。

2-2. 究極の田舎政策

- 因幡の田舎環境を生かした「因幡オリジナル」の商品・サービスを地域の人と協働し、楽しみながら外部の人々に提供します。
- 因幡の田舎環境や田舎体験は高価なものであることを啓蒙します。
- 「田舎」と「経済」が好循環するまちを創ります。

2-3. 新生鳥取砂丘政策

- 日本唯一の自然環境である鳥取砂丘を新たな視点で捉え、新しい鳥取砂丘を創造します。
- 鳥取砂丘を新たなコンテンツとコラボレートさせることによって、滞在型・リピート型の環光地にします。
- 鳥取砂丘が世界の乾燥地研究の中心地であることを活用ならびに発信します。

3. 「環光のまち因幡」推進運動の 実施にあたって

3-1. 視点

「人と人の環」

- 因幡地域のオピニオンリーダーと協働した活動を行うとともに、新しいオピニオンリーダーの発掘を行います。
- 因幡市民と協働することによって、「環光のまち因幡」推進運動が因幡のまちづくり運動として広がることを意識して活動します。
- 鳥取自動車道・山陰道を活用し、他の地域と連携したまちづくりを行います。

「未来への光」

- 青少年の育成を視野に入れ、積極的に次世代の因幡を担う人材を育成します。
- 「環光のまち因幡」推進運動を各自の会社のビジネスに繋げることを意識することにより、運動の広がりと継続性を強めます。
- 「因幡オリジナル」の商品を創造し、広く発信することにより「環光のまち因幡」の地域イメージを創り、交流人口を増やし、地域経済を活性化します。

3-2. 対象とする期間

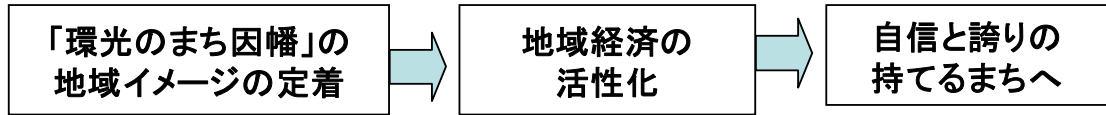
- ・ 創立50周年にあたる2009年より10年間、継続性と発展性をもって取り組む。その間5年を目安に必要な応じて修正を行う。

3-3. 10年後の目標

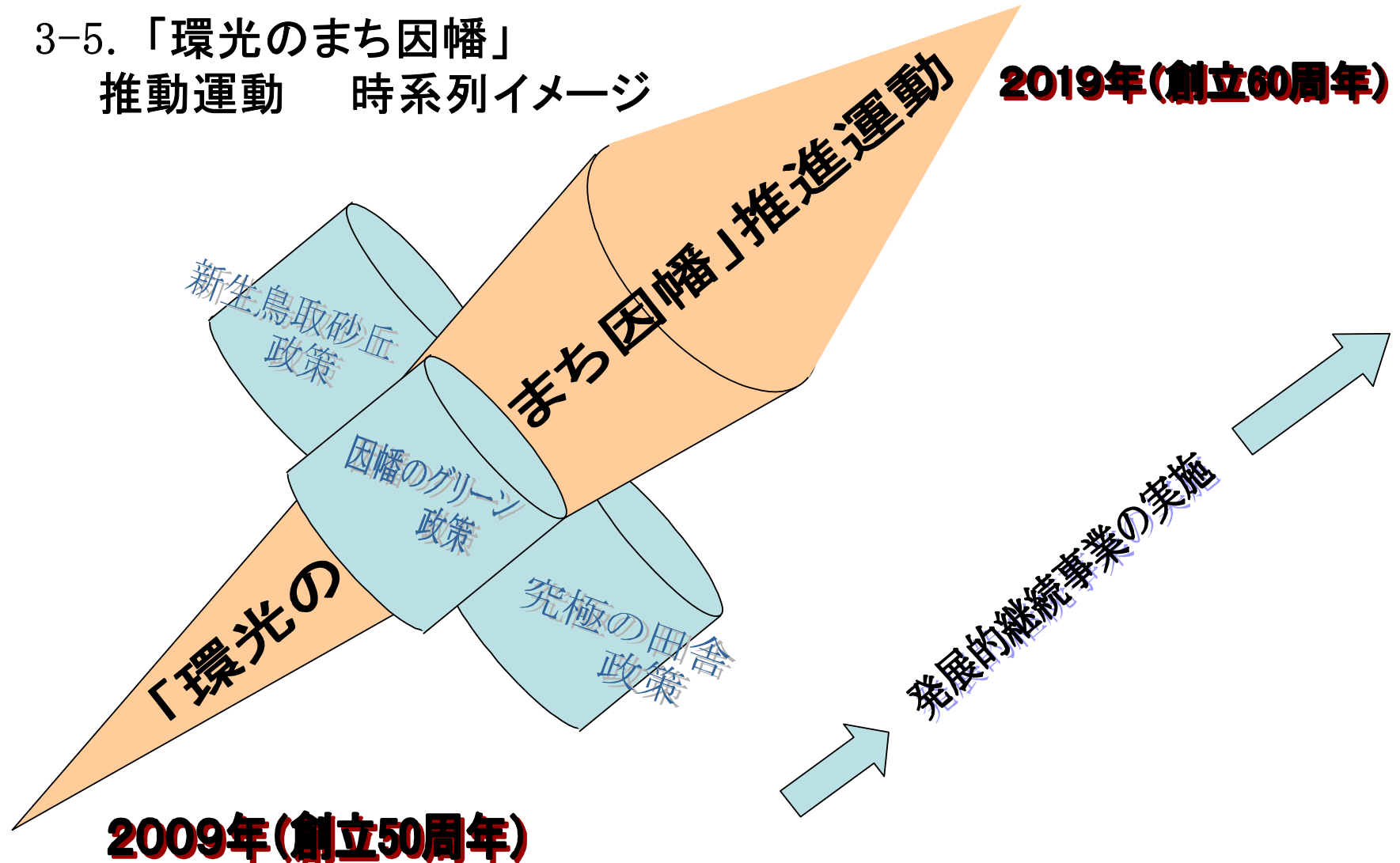
- ・ 3つの政策を、因幡市民・大学・研究機関・企業・行政・NPO等と協働しながら推進し、ビジネスとして成り立たせます。
- ・ 「環光のまち因幡」の地域イメージを定着させ、因幡地域に環境研究や自然環境を求めて人が集まり、地域経済を活性化させます。

3-4. 50年後の夢

- ・ 因幡は環境分野のシリコンバレーとなり、世界から企業や研究者が集まり、環境分野で世界をリードする地域となります。
- ・ 因幡は世界から必要とされる地域となり、すべての因幡市民が地域に自信と誇りをもって暮らすまちになります。



3-5. 「環光のまち因幡」 推進運動 時系列イメージ



策定： 2008年(社)鳥取青年会議所 因幡ビジョン特別委員会

委員長 水野 由久

副委員長 妹尾 祐司

委員 濱崎 大輔

委員 有本 由紀子

委員 小池 誠

委員 山下 浩史

委員 安田 雄哉

委員 山根 康穂